International Exchange Center, Nara Women's University
奈良女子大学

国際交流センター NEWSLETTER

Sep. 2015 Vol.40

夏期ベトナム研修生の報告

本年度より、国際交流センターと理系女性教育開発共同機構が主催で、8月16日から15日間ベトナム　ハノイ貿易大学での講義を含む研修を行いました。本年度は、9名の学生が参加しました。

ベトナムに学ぶ'バランス'のとれた豊かな生活

濱岡　幸　文学部人文社会学科　2回生

ベトナムの人はいろいろな場面で'バランス'をよく考えると学生に教えてもらった。また、講義ではベトナム人は自分たちの生活に満足感があると聞いた。そこで、私はベトナム人が生活に満足感を感じる一つの要因は、バランスのとれた生活にあるのではないかと考えた。ベトナムの生活を考えることで、日本を見直し、ベトナムとの交友関係について考えを深めたい。日本に比べてベトナムでは手軽に栄養を摂取できる料理が普及しているといえる。

市場の野菜や肉、魚の種類と量を見ても分かる。もちろん日本でもバランスのとれた料理はたくさん作られているが、保存するためにいくらかの添加物が入っているだろう。ベトナムではその場で調理をするので、添加物が入っているとすればハムやベーコンくらいではないかと思う。手軽で栄養価の高い料理がベトナム人の心と体をスマートにしていると考えた。時間を有効活用できる。日本では時間を有効活用というと仕事や勉強のためだと思われるが、ベトナムではそのことによって、仕事をしたり、友人と語り合ったり、寝たりすることができ、一見自由気ままに見えてバランスをとってストレスのたまらない生活を送れているように思える。日本でも、手軽さと栄養価を考えた商品や休養のとり方を考えていきたい。

周りの国との関係性を築いていく

石田　瞳　文学部人間科学科　2回生

夏期のベトナム研修を終えて気づくことは、ベトナムと日本という国の違いであった。まずなじみのないベトナム語が羅列された広告や看板はたいへん物珍しく、ベトナム語が全くわからない私にとって、どの文字が何のことを指しているのかさえわからなかった。例えば飲食店でメニューがどれを指しているのかわからない、また地図を見る際にどの方向に行けば中心地に向かうのかわからないことがあった。これは日本語が全くわからない外国人にとっては同じように映るのではないだろうかと考えた。これは日本がこれから観光立国を目指していく上で英語ないしは様々な言語や文化、またさまざまな年齢層や身体的特性などに対応していく表記を行うことの重要性を感じた。写真付きのメニュー表記やマイル表記かキロメートル表記かなど、まだまだ工夫して行くべき点が多いと感じた。逆にベトナムでは韓国系企業のたぐいまれなる広告・宣伝の効果を実感した。現在日本はその活動が韓国企業に負けているということは強く感じているものの、実際に何らかの具体的なビジョンが見えているわけではないのだろう。

市場の野菜

Inside This Issue

夏季ベトナム研修生の報告
夏季南京大学中国語研修生の報告
NWU International Summer Programme 'MAHOROBA' を開講しました
センター及び国際課の活動＆来訪者

それに対する韓国の企業、国家全体の戦略の在り方やその思いの強さを感じた。私たちは日本の未来を考えるとき、今まで通りのなんとなく周りの国が関わろうとする流れに身をまかせる外交や政策を考えるのではなく、自らがよりコミットメントする能力を持ち、周りの国との関係性を築いていくかを考える時代に突入したことを念頭に置きながら、ベトナムとの関係のみならずアジアの中でどのような役割を果たしていくべきか、長期的な視点で考えていくべきだろう。

ベトナム人の友達ができたことが一番良かった

米尾瑞希　文学部人文社会学科　2回生

茶摘み体験

初めの一週間は、ハノイ貿易大学でお世話になった。貿易大学で日本語を学んでいる学生さんが一緒に行動して通訳をしたりタクシーを手配して街中を案内してくれたりと、本当によくしてくれた。

英語を話せる上に第二言語である日本語もペラペラで意欲の高い優秀な学生さんばかりだったので、自分も影響を受けて英語に対する学習意欲が上がった。また移動中の車のなかでは会話が弾み、私たちはベトナムの文化や風習、車から外を見ていて気になったことを質問したり、日本語専攻の学生さんは日本のことや日本語についての質問をしたりして、ベトナムについて理解が深まるだけでなく、日本語や日本の風習などを改めて見直す機会になった。ベトナム人の友達ができたことが私にとってベトナムに来て一番良かったと思うことである。

後の一週間は、南へと下って行きながらの観光地と遺跡めぐりである。とても贅沢な観光だったが、学生さんたちとのハノイでの生活が懐かしく感じられた。自分が求めていたのは現地の人とのかかわりなのだと気付いた。

自分の考え方に大きな影響があった

圓谷香織　生活環境学部生活文化学科　1回生

ハノイ貿易大学で経済の講義を受けた。ベトナムには現在韓国と日本の2国の企業がおもに進出しているという。道路など生活の役に立つものを作っているのは日本である。しかしながら日本はアピールの点で韓国に劣っており、結果的に韓国の企業のほうが受け入れられている、と講義の先生はおっしゃっていた。この話を聞いてはじめ、目立たなくても日本の行いがベトナム人の役に立っているならそれでよいのではないかと思った。しかしその後、「あなたならどうやって日本をアピールしますか？あなたたちの世代でもできることはたくさんあります。」という言葉がとても印象に残った。

日本にもアピールすべき点はたくさんあるし、日本の良さをたくさんの人に知ってもらいたいと思う。しかしその手段や技術がなければかなわないことである。だから自分にもできる方法を考え、実行していきたいと思った。

ベトナムのフルーツ

ベトナムの仕事感の長所、日本の仕事感の短所

北原芳那子　文学部人文社会学科　2回生

カイディン帝廟

ベトナムで過ごしていて、3つの仕事感があることに気づいた。1つ目は、自分のお店の建物がある人たちの仕事感。仕事をしているといった感じではなく、寛いで生活をしているように感じた。集客に積極的ではない。2つ目は道ばたで物を売っている人たち(貧困層)の仕事感。集客に非常に積極的で、物を売る以上に買わせるほどの気概を感じた。買わないと分かった瞬間の変わり身も早く無駄がなかった。また、この人たちには高齢の女性が多かった。3つ目は市場の人たちの仕事感。この人達は1つ目と2つ目の状況、仕事感の中間であった。大きな建物の中に小さく自分の店を構え、集客に関してはまちまちだったが一度来た客は逃さないように値段交渉していく。

最初はこれらの仕事感を否定的に見ていた。しかし、ハノイ貿易大学の授業で「きちきちしすぎないことでストレスがたまらず、平和に過ごしている」と聞いてベトナムの仕事感の長所、日本の仕事感の短所を見るようになった。1つ目の仕事感は、ゆったりしていて身内感があり何でも割と自由にできる。困っているのを見たら気さくに話しかけて教えてくれるし、そこから話題を広げて別のことも教えてくれる。2つ目、3つ目の仕事感は、集客のために多言語を操れる人が多く、観光客から見て買いやすくおもしろいものである。逆に今の日本では「店員」と「お客様」の線引きがはっきりしていて客とのコミュニケーションは少ないし、「お客様」だと横暴になる人も多い。喋れる言語も英語までで後は挨拶すら分からないところが多くある。

以上のことから自分が至上であると思っていたものはどれほどひいき目に見ていたものなのかわかった。その固定観念により新たな物を受け入れられず否定していた怖さや、認めて受け入れ見習っていく事の大切さを知った。国際交流においては、自国への誇りを持ちながらも短所をしっかり見つめ、他国の長所を尊重し、学んでいく必要があるのだと感じた。

異国であるのに自国のような雰囲気

中村有理紗　文学部言語文化学科　2回生

今回の研修ではベトナムのさまざまな都市を巡ったが、ベトナムという一つの国のなかでも都市によって街の雰囲気はまったく異なるということを実感することとなった。ハノイやホーチミンなどの大都会は、「ベトナム」と聞いて想像していたようにバイクが多く、クラクションが鳴り響く賑やかな街であった。一方、二週間目に訪れた「ホイアン」は旧市街地へのバイクの侵入を禁止しているためからか、静かで落ち着く空間であった。ホイアンには日本橋があることからわかるように、日本と交流をしていた時期がある。しかしホイアンの町並みは黄色い建物が立ち並んでいてヨーロッパを思い出させるものでもあった。また、「ランタン祭り」が近かったためでもあるが提灯で飾られた街は日本に近いようでやはり異国のような雰囲気があり、とても心惹かれる不思議な街だった。

ホイアンのランタン

ホイアンは古くから港町としてさまざまな国と交流を持ち、その文化には中国やフランス、日本などさまざまな国が融合されていることが分かった。そのような文化によって、ベトナムという異国であるのに自国のような雰囲気があるという不思議な感覚を外国人に与え、観光客を魅了しているのだろうか。今回の研修で、ホイアンという地に魅了され、またその地が日本との交流があることを実感できうれしく思う。

友だちがいると、その土地が身近に感じる

鈴木ひかる　理学部数物科学科　2回生

　ベトナムが本当に好きになりました。理由の一つは、「友だち」です。今回の研修では、前半の１週間をハノイ貿易大学とその周辺で過ごしました。短い時間でしたが、同じ世代の人たちと交流し、友だちになることができました。遠く離れていても、友だちがいると、その土地がとても身近に感じられます。日本に帰ってきてからも、ベトナムにいるみんなは元気だろうかと、よく考えます。また、今回の交流は、私の語学学習への意欲を高め、国際社会への関心を強くしてくれました。日本語クラブの学生さんは非常に日本語が上手だったため、会話はとてもスムーズでしたが、日本語や日本の文化についての質問にうまく答えられず、いかに自分が自国のことを知らないか気づくことができました。日本語クラブの人以外とは、英語での会話がほとんどだったので、日本語で話すのに比べれば、思うように気持ちを伝えられずもどかしい思いもしましたが、これまでの海外経験や、英語学習で得てきた自分の英会話力の力試しができ、とても良い経験となったと思っています。また、ベトナムに来ている各国の留学生と交流したことで、文法や発音に自信がなくても、とにかく話すこと、伝えようと努力することの大切さを実感しました。おかげで、英語力に自信のない私でも、楽しいお喋りができ、いろんな国の人と仲良くなることができました。

ハノイの民族博物館

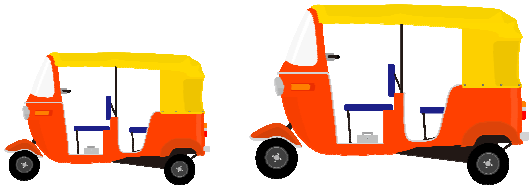
私の世界が大きく変わった

青木里紗　文学部言語文化学科　1回生

ハノイ旧市街

　ハロン湾旅行では、ベトナム以外の国からの留学生たちや現地の人とも交流し、とても刺激を受けた。異国の地で同世代の人たちが、故郷や母語を共有していなくても英語という共通の言語を用いながら笑い合っている。その様子を見て、こんな世界があるのだ、と世界が開けたような感じがした。今まで私は随分狭い世界の中にいたことを知った。また、彼女らの言語能力の高さに圧倒され、英語を通したコミュニケーション能力をつける必要性を強く感じた。

　表面的なことしか見えていなかった頃と比べ、その裏にある原因や事象などが見通せるようになったことも研修の後に変わった点だと思う。例えば、ベトナムにはバイクが多い。以前はただそれだけの知識だったが、バイクが多いのは公共交通手段が発達していないからで、今日本が公共交通手段整備の支援をしていることを知った。このように日本との関係の密接さも折々で感じ、さらに今後の日越関係がうまくいくことを願うようになった。



夏期南京大学中国語研修生の報告

8月21日より1か月間、中国　南京大学にて中国語の語学研修を行いました。6名の文学部の学生が参加しました。肌で感じ取った生の中国の感想を報告します。

街の様子や関わった中国人の言葉や行動から中国を感じた

小薗美月　文学部人間科学科　2回生

南京にいる間、私はよく散歩をしました。上半身は裸だったり、Tシャツをめくりあげてお腹を出して歩くおじさんはよく見ましたし、道の隅っこでトランプやマージャンをしている光景もよくみかけました。何かの踊りをみんなで踊っているおばさんの集団も、太極拳をしている人たちもよく見かけました。また、南京のカップルは非常に堂々といちゃつきます。路にはリードをつけていないので野良犬なのか飼い犬なのかよくわからない犬たちがあふれています。ぶらぶら歩きながら、または広場でヨーグルトを飲みながら（中国ではヨーグルトはストローで飲みます）にぎやかな南京のまちや人々を眺めているのは、よく考えてみればなかなかできないおもしろい体験でした。印象に残った光景や出来事について後日中国人の先生や友人に尋ねてみると、また中国人らしいある意味で合理的な答えが返ってくることが多くこれもおもしろかったです。

例えば、なぜ飼い犬もリードにつながれていないのかときいたら、「リードをつけたら歩く人やバイクや自転車に引っかかって邪魔になるから」と教えてくれました。お店の店員がスマートフォンをいじってばかりですね、といったら「中国人はみんなスマホが好きだから」と返してくれました。そこら中で鳴り響くクラクションについては、最初は不快感を覚えていたのに、だんだんと慣れて、帰るころには「車や電動バイクがクラクションを鳴らして警告してくれないとこっちが轢かれてしまうよな」と考えるようになりました。私は、こういう風にしてまちの様子や関わった中国人の言葉や行動からいつも中国を感じました。中国の勢いや、まっすぐな合理的さに流されそうになりながらも最初はやっぱりどこか引っかかってしまう自分に日本を感じました。外国人として、自らー か月間中国に触れるというのは今考えてみてもとても貴重でおもしろい体験でした。

自分のことを見つめ直すことができた

原田麻衣　文学部言語文化学科　2回生

中国人の友人たちを見て最も印象的だったのは、皆自分について自信をもって話す姿勢だ。必ずしも彼らは自分に自信があるという意味ではない。私は彼らから、大学では何を専攻しどうしてそれを学ぼうと思ったのかなどの真面目な話から家族や故郷のこと、面白おかしい話など、様々な話を聞いた。しかしどれをとっても自分のそれらを好きなのだという気持ちが伝わってきたし、楽しそうだったのだ。しかしそのような話をする時に、相手から私のことを進んで聞かれることは少なかったように思う。ここでは自分から進んで話すことをしなければ、相手に自分のことをわかってもらうことはできないということを痛感した。私はこのような経験をするまで、自分の選択や行動にさほど自信が持てておらず、他人のことを羨ましく思うことさえ多々あった。しかし、このような中国人の友人の姿勢を見てから自分の身の周りのことを振り返ってみると、良い環境や良い友人がたくさんいるし、自分の中にいいなと思えるところもたくさんあることに気が付いた。

現地の友人たちと

またそのように思えるものを増やしていく努力をしようとも思った。中国の友人と触れ合うことで、自分のことを見つめ直すことができたように思う。

行ってみないことには分からない

山道優里　文学部言語文化学科　2回生

友人たちと

今までほとんど日本を出たことがない私は、自分が「外国人」であるという感覚をもつことがありませんでした。しかし中国に来て、そこで暮らす人々を間近で見てはじめて自分が「日本人」であることを意識しました。

初めは中国と日本を比較してここが良い、これは耐えられないなどと考えていましたが、慣れてくると中国のあり方をそのまま許容できるようになり、ここではこのように暮らすものなのだと思えるようになりました。中国に行くと決めたとき、友達や親戚に「危険じゃない？」「どうして中国なの？」と聞かれることがありました。確かに日本にいるとTVやネットを通した中国の危険なイメージが頭についてしまうこともあります。しかし実際に行って危険な目にあうことはありませんでした。私が行ったのは広い中国の中のひとつの都市なので、それによって中国の全てが理解できたわけではありませんが、少なくとも中国を訪れる前の、メディアによるイメージだけで中国を知っていた頃よりも真実に近づいたのではないかと思います。行ってみないことには分からないと思い、思い切って行ってみてよかったと思います。また南京大学の学生さんは勉学に熱心で、考えも深く、尊敬しています。彼らとの交流は自分にとって良い刺激となりました。また、寮のエレベーター内での出会いも多くありました。韓国やタイ、英語圏から来た学生さんと中国語を使って会話をするのは非常に新鮮で面白かったです。

今回話す機会のあった中国の方は皆親切で、私の拙い中国語を聴こうとしてくださったのが今思い返してもありがたいことだと思います。

新たな目標に向けて

佐藤希帆　文学部言語文化学科　2回生

現地での学生さんとの交流も非常に良い刺激となりました。南京大学の学生さんだけではなく、同じ様に中国語を学びに来たタイ人の女の子たちや、南京大学で夏季講習を受けていた高校生など、様々なタイプの友人とご飯を一緒に食べました。中国語や英語、日本語と三つの言語が交互に飛び交い、常に手探りの状態ではありましたが、彼らが何を目標とし、何を学び、学ぼうとしているのかがわかり、私自身も自分の目標を定めて努力し続けなければならないと感じました。真面目な話ばかりではなく、時には趣味や恋愛といった話をすることもありました。私の知らないドラマや俳優・女優さんについてまで熱く語る方もいましたし、クラシックや本などの話をする方もいました。この時間は何にも代えがたいほど素晴らしく、政治上では問題があっても、文化の前では国籍関係なく交流できるのだと初めて実感しました。時には自分の言いたいことがうまく伝わらず、苦労することもありましたが、共に研修に参加した仲間の支えもあって、前向きに学習に取り組むことができた様に思います。

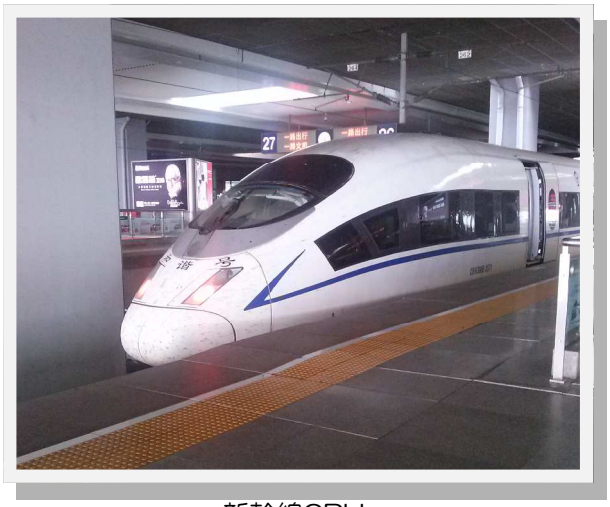
中山陵

研修中のことを振り返ると、自分が定めていた目標は半分ほど達成されました。自分を見つめなおし、新たな目標に向かって頑張ること。これに関して、南京での生活は十分すぎるほど私に良い刺激を与えてくれました。今は、国文学だけでなく中文も勉強するという新たな目標に向けて学習しています。ただ、研修当時は、まだ中国語が拙く、自分が知りたかった中国文化について、教養を深めることができなかったので、中国語の学習を継続、上達させて再び中国にいって勉強したいと思います。

中国語を通じて他の国の人たちと話す

佐藤弘菜　文学部人文社会学科　2回生

南京留学に行く前、私は中国語が話せるわけでもなく、授業で習った程度の知識しかなかったので、このような状態で留学しても大丈夫だろうか、と不安でした。最初は先生や店員さんの言っていることが聞き取れず、不安は大きくなるばかりでしたが、中国で生活していくなかで、聞く力、話す力が徐々についていっているのを感じることができました。中国が抗日戦争に勝利して70周年にあたる年だったので留学に対して少し心配な部分もありました。9月3日の抗日戦争勝利記念日が近づくと、抗日関連の内容の番組が中国のテレビで流れることが多かったのですが、留学中、身近な中国人と関わる上では日本のテレビで報道されているような反日感情というのはほとんど感じられませんでした。本屋には日本文化に関する本が置いてあったり、日本のアニメが好きだという人に出会ったりと、日本に好感を持ってくれているのだなと感じることも多々あり、嬉しく感じました。南京大学の先生、学生、お店の店員さん、清掃員さんなど、皆とても温かく接してくださりました。私のつたない中国語を一生懸命理解しようとしてくれ、また、わからないことがあった時にそのことを伝えると、わかるように説明してくれたりもしました。



新幹線CRH

留学で一番刺激的だったのは、南京大学の学生との交流です。皆やりたいことが明確にあって大学で勉強をしているという印象を受けました。私はどうしてもこれが勉強したい、というものが特にないまま大学に入って、今までの大学生活もなんとなく過ごしてしまっていたので、とても反省させられました。また、南京大学で留学している韓国人やタイ人の学生とも話す機会があったのですが、中国語を通じて他の国の人たちと話すことができるというのは、なんとも不思議な体験でした。

中国の面白さを知ることができた

久冨由貴　文学部人文社会学科　2回生

土曜と日曜日は授業がありません。毎週土曜は南京大学の日本語学科の学生との交流活動が組まれていて、そこで中国人の友人もできます。中国の友人と言えば最初の頃に中山陵の引率をしてくれた人がとても優しくて面白く、日本語も上手で、私たちの行きたい場所によく付き合ってくれたり、沢山のことを教えてくれた本当に素敵な人でした。他の中国の友人もみんなとても優しくいい人たちばかりでした。中国人は初対面でもとても親しげに話してくれます。ホテルの部屋を毎日掃除してくれる従業員の方と少しおしゃべりをするのも毎日の楽しみでした。日本人だからといって不快な思いをすることはあまりなく、むしろ日本を良くいってくれる人の方が多くてとても嬉しかったです。

総統府

私のお気に入りは中国の果物でした。日本では果物は高くてあまり買いませんが、中国の果物はとても安くて美味しく、日本では見かけない珍しい果物を食べることができます。お気に入りの果物屋さんにほぼ毎日通いました。また、南京大学では様々な国から沢山の留学生が来ているので、勇気を出せば外国人の友人が沢山できると思います。南京のあとの上海観光も非常に濃く楽しい２日間が過ごせました。

毎日中国語の勉強ができて、友達と楽しく過ごせ、美味しい物を食べ、観光もできた中国短期研修は、大学に入ったものの特に目標もなく部活やバイトばかりで、授業の予習も適当に済ませ、適当にご飯を食べながら怠惰な日々を送ってしまっていた私にとっては本当に充実した一ヶ月間でした。一ヶ月で中国語はかなり上達しましたが、やはり中途半端なものでとても満足できず、もっと中国で勉強したい、まだ帰りたくないと強く思いました。もともとたった一ヶ月ではきちんと話せるようにはならないと思っていたため、何か少しでも得るものがあれば、と参加した研修でした。しかし研修後は中国語を勉強し、実際に使ってみることの楽しさ、中国という国の面白さを知ることができたので、もう一度中国へきちんと留学へ行き、中国語を活かしたり、中国と関われる仕事がしたいという目標ができました。同じ研修に参加しても得るものは個人差がありますが、私の場合は自分の本当にやりたいことを見つけることができたので、今回研修に参加して得たものはとても大きかったです。

NWU International Summer Programme ‘MAHOROBA’を開講しました

2015年7月13日（月）～22日（水）の10日間、海外交流協定大学の学生を対象としたサマープログラム「MAHOROBA」を開講しました。海外の学生15名を奈良へ招聘し、日本の文化、歴史や奈良の魅力を学び、本学学生をはじめ地域の方々とも交流を深めました。

Tran Hoai Thu / Hanoi University

To begin with, 11 days in NWU comfortable shared dormitory is truly memorable. Frankly, I’ve always been curious about Japanese daily and school life. Furthermore, I had really expected for experiences of spending time in an international environment with new friends at the same roof. From my point of view, the shared dormitory with shoji doors and tatami flooring not only shows me a typical Japanese housing but also enhances interaction among students, in compare with the separated-room dorm. Girl talks, walking, cooking and other activities seem to be more interesting when they are shared with other people. Particularly, I really appreciated friendly and the enthusiastic from Japanese students. They prepared us soumen party and helped us solve difficulties in trash reparation. Especially Eriko Hayashi-san and Kasumi Shigekawa-san, who are the first NWU students I’ve talked, showing us the campus at the first day and visit us many times during Mahorora. Interestingly, they are also the last Japanese students we met at the last night in Nara.

Field trips and weekend trip: definitely, these trips made my 2015 summer unforgettable. I think it’s hard to forget the rainy afternoon walking along Nara’s streets to visit Nara hotel and Imanishi Shoin with Prof. Fujino. I don’t know it was the weather or the ancient atmosphere of Nara that drove me reminiscent. Similarly, when Prof. Kawakami took us to Todaiji temple, temple architecture that last for a long time, seems to be the unchanged symbols regardless of time. In the other words, I really respect the way Japanese reserve their heritage, both nature, and culture.

最終日の様子

野迫川研修旅行

センター来訪者

●2015/9/23
田地野　彰　氏
（京都大学教授/国際高等教育院および大学院人間・環境学研究科（外国語教育論講座））

センター及び国際課の活動

2015/7/13-22	サマープログラム「MAHOROBA」開催
2015/7/16	夏季ベトナム研修・ 夏季南京中国語短期研修説明会
2015/8/5	夏季ベトナム研修最終説明会
2015/8/19	夏季南京大学中国語短期研修最終説明会
2015/8/16-30	夏季ベトナム研修
2015/8/21-9/20	夏季南京大学中国語短期研修
2015/9/23-26,28,29	TOEFL対策講座

編集後記: 夏の研修を終え、沢山の報告が届きました！来月号は交換留学生の声を掲載します。(編集者: Yoko Sen)

奈良女子大学　国際交流センター

NEWSLETTER　2015年9月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町
TEL: 0742-20-3736
Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp
http://www.nara-wu.ac.jp/iec/index/